

各学校における授業改善に向けた「授業改善例」の活用について

平成28年6月

鳥取県教育委員会

この度、各学校の早期からの授業改善に役立てていただけるよう、授業改善例を作成しました。

本授業改善例は、全国学力・学習状況調査抽出結果分析で明らかになった課題の一部を取り上げ、その改善に向けた授業づくりや学校としての取組についてまとめたものです。

各学校において授業改善に向けた取組を推進していく際には、学校全体で解決すべき課題を明確にし、重点化を図った取組を進めていくことが大切ですが、重点化を図って解決すべき課題は、学校によって異なります。

各学校におかれましては、全国学力・学習状況調査を活用した授業改善のステップ2とステップ3をつなぐ参考資料として本授業改善例を活用していただければと思います。

ステップ1

全教職員で調査問題の趣旨（メッセージ）を確認する

ステップ2

全教職員で抽出結果や自校採点結果を分析し、課題の所在を話し合う

～ステップ2とステップ3をつなぐ手順～

- ① 抽出結果や自校採点結果における正答率と反応率から課題がある問題を発見します
課題のある問題については、全教職員で問題を解き、どのような学力が求められているのかということを感じることが大切です。
- ② 課題がある問題の特徴を確認します
国立教育政策研究所から出された「解説資料」で、設問の趣旨、学習指導要領における領域・内容等について確認します。
- ③ 解答類型への反応率からこれまでの指導を振り返ります
解答類型への反応率から子どものつまずきの状況を把握するとともに、課題の見られた問題に関連する学年でのこれまでの指導がどうであったのか振り返ります。
- ④ 課題解決のためにどの単元の授業をどのように改善するか明らかにします
課題の見られた問題に関連する学年での指導をどのように改善していくのか、学校全体で共通理解を図ります。
- ⑤ 学校全体で取り組むべきことを明らかにします
課題の解決に向けて、どのような学年の系統化を図った取組や教科横断的な取組が必要か、学校全体で共通理解を図ります。

ステップ3

全学年を通じて、年間の見通しの中で課題を解決する

ステップ4

調査問題や抽出結果、自校採点結果の分析に基づく授業の日常化を図る